

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のもので)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071300630		
法人名	社会福祉法人 愛光園		
事業所名	愛光園 第2グループホーム(愛)		
所在地	和歌山県伊都郡かつらぎ町佐野 1386		
自己評価作成日	平成25年2月9日	評価結果市町村受理日	平成25年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=3071300630-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会		
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F		
訪問調査日	平成25年2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者の方には閉塞感をなくしていただけるよう外出(買い物、ディサービスでの交流)機会つくるようにしている。 近隣には季節の野菜や果物畑があり、四季をかんじていただけるような散歩やレクリエーションを心がけている。 入居者の認知症の予防、健康管理など医療機関や家族様と連携をとり、安心して生活して頂けるようにしています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、一階二階のユニットからなっており、建物内は、清潔感があり明るく、各居室にトイレが設置されている。居室は広く、個々の馴染みの品が持ち込まれ、家庭の延長のように居心地良く整えられている。入居者・家族の希望を聞き入れるよう心がけて、一人ひとりに添ったケアを提供している。特に食に対する取り組みに力を入れ、準備、調理、片づけ等もケアの一環として位置付け、生活の中でのリハビリになる工夫をして、職員と共に食事をおいしく楽しむことができる支援をしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしく生き生きと」を理念に掲げ、目のつきやすい場所に貼り実践しています。	「その人らしく」とは一人ひとりの性格や意思を尊重し本人自身の時間を大切にすることで、全職員が認識し、意思統一できるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の人に会えば挨拶をし、同地区の公民館で開催される交流会に参加しています。	保育園から園児の訪問を受けている。地域住民の訪問はほとんど無いが、散歩に出かけた時に近隣の人と出会うと畑で作った野菜を頂く等の関係ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の公民館での交流会に参加することで認知症の人について少しずつ理解してくれ偏見なく接してくれるようになってきた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議をもち、サービス向上につなげています。	年2回、家族・町の担当者、社会福祉協議会職員・地域包括支援センター職員らの参加で行われている。今後、グループホームとして地域に還元できることについても話し合い、運営に反映させようとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	殆ど出来ていない。	事務連絡以外のやりとりはみられず、現在は、運営推進会議だけの関わりである。	運営推進会議を足掛かりに、積極的に向出くなどして、協働関係を築き、連携が深まることを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ほとんどの職員がだいたい理解しているが全員が具体的には理解出来ていない。玄関は施錠している。	入居者の自由な暮らしの支援をするなかで、安全の確保のためのリスクも考え、やむを得ず玄関に施錠している。	身体拘束の弊害について全職員が共通認識を持って取り組めるよう期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会を持っていないが、虐待を見逃さないように常に注意している。		

【事業所名】愛光園 第2グループホーム ユニット名:愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全員ではないが半数のスタッフは殆ど理解できています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用前に家族様に説明し、疑問点などを質問してもらい理解してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の苦情は常時受け付けており、苦情があればすぐに対応するようにしています。利用者様も職員や管理者に言ってくれています。	家族の訪問時に、何でも話してもらえよう配慮して対応している。何でも話せる雰囲気心がけ、入居者から出された要望については速やかな対応で改善の取り組みを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	聞く機会を特別には設けていないがミーティングやコミュニケーションにより聞けるようにしている。	全員が常勤職員という勤務態勢でまとまりがあり、共通認識を持って意見を共有しやすい。管理者はミーティングで、職員の意見を聞き入れ、活かしていけるように調整を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務の希望は出来る限り聞いており、有休も取りやすくなっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は受けていますが、その他は機会が少ないです。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出来ていません。		

【事業所名】愛光園 第2グループホーム ユニット名:愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前にご本人様や家族様に会い話しを聞き情報として役立っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に家族様に話を聞いて情報を得、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様の希望を聞き、それに応じた対応をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は話やすい雰囲気作りに努め、日々の役割を持ってもらい共に生活する人と認識してもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や行事参加時に発言しやすい雰囲気をつくり、共に話し合い関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会など立ち寄りやすい雰囲気をつくっている。家族さんの希望で法事や墓参りに外出してもらっている。	法事や墓参り・旅行等、家族の協力で関係が維持できるよう支援している。入居者同士が、以前から知り合いである場合も多く、共通の知人や場所などの話題も豊富で、会話の中での関係性も大切にして支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会議の場をもち利用者同士の関係が把握出来るよう努め、必要であればその都度話合っている。		

【事業所名】愛光園 第2グループホーム ユニット名:愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当ホーム、法人で対応出来ることは行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用したり、本人との会話により思いや希望の把握に努め、本人の意見が出にくい場合は本人本位で検討している。	本人からの聞き取りが充分でないときは、行動や表情から汲み取り、家族からも情報を得て、希望に繋げるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を記入してもらい、家族様から話を聞き把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的に会議をもち、利用者様の状態について意見交換、話し合い把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様や本人の希望を聞き、反映できるよう職員で話し合い介護計画につなげている。	状態の変化がないときも、3～4ヶ月ごとのモニタリングで確認しており、状態変化があればカンファレンスを行い結果をもとに介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコンソフトに入力しており、いつでも確認できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所では対応できないことは、他の事業所や医療機関を中心に連携をとっている。		

【事業所名】愛光園 第2グループホーム ユニット名:愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会資源としては散歩と買物の中でのふれあい程度である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や連携をとっている医療機関を中心に他科受診も行なっている。	認知症の専門医である事業所の協力医が、家族の納得の上かかりつけ医となっている。受診が必要であれば、状況に応じて家族が対応し、不可能な時や緊急時は職員が代行している。定期的に歯科の往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携をとっている医療機関の看護師に相談し、必要であれば受診出来るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、薬情報と介護要約を提供しています。必要であれば電話対応もしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアなどについての指針をまとめ、家族様に説明している。	ターミナルケアについては、法人との連携ができており、入居時に指針を説明し、必要になれば相談して確認しながら取り組んでいる。できるだけ本人の意向にも添った支援ができるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成しているが訓練は出来ていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火避難訓練は行なっているが地域との協力体制等は築けていない。	防災避難訓練が行われ、火災通報報知器で消防署との連絡の仕組みができています。水害の避難経路の確認がされ、備蓄は法人全体で準備されている。	地域との繋がりを深める中で、災害対策の理解を求め、協力体制を築いていける工夫を期待したい。

【事業所名】愛光園 第2グループホーム ユニット名:愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴染みが出来るように、又尊敬し、失礼の無い様になっています。	丁寧な言葉かけで信頼関係を築きその人らしさを大切にしている。排泄への支援では、羞恥心にも配慮し、プライドを傷つけないよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話を多く持つことで思いや希望を知り、希望を出来る限り聞き入れ、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れが大体決まっている中で各個人のペースで本人の希望に出来るだけ沿って過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容、髭剃りを促している。その人らしいおしゃれが出来るよう出来ないことは介助し行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備し、昼食は毎日一緒に食べている。又片付けは、毎回利用者さんの日課となっているのでさりげなく支援している。	材料が無駄にならないよう一週間のメニューを相談しながら決め、入居者と調理・片付けをともに行っている。一人ひとり使い慣れた箸や茶碗・湯のみを使い、職員も同じテーブルにつき、食の楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は以前栄養士さんが作ったものを使用し、水分摂取が少ない方はチェックシートを作り水分摂取を促しています。水分の制限が必要な方には一日の水分量をペットボトルに入れていきます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その人にあつた口腔ケア(声かけ、介助)を行なっている。		

【事業所名】愛光園 第2グループホーム ユニット名:愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけ自立できるよう、トイレ誘導を試み、リハビリパンツの使用を最小限にしています。	本人の能力を見極め、場面に合わせて失敗がないように自立を支援している。本人の態度やしぐさを読みとり、個々に合わせた形で誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘ぎみの方には、水分を多く摂取して頂き、運動を促し行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は決まっており、その中で利用者さんの希望に沿えるようにしています。	毎日、入浴が行われ、順番等、希望に添えるよう配慮し、一人ひとりの気持ちに合わせて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に自己決定してもらっています。使い慣れた布団や枕などを使用し安眠出来るようにしています。日中でも眠気を訴える利用者さんには昼寝をしてもらっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に処方箋をファイルし、服薬カードを作り服薬時に照会している。また薬の変更があればパソコンに入力し、すぐに確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔の趣味や得意な事を活かし楽しく過ごせるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望による外出、外泊は家族さんの付き添いがあればいつでも可能です。	本人の希望があれば一緒に買い物をしている。外出による環境変化が不穏状態を引き起こさないよう、戸外に出るときは自然環境が多い場所を選び、落ち着いて楽しめるよう取り組んでいる。	閉じこもりがちにならないように、戸外に出る機会を多く持てるようにして、気持ちよく生き生き過ごせる工夫を期待したい。

【事業所名】愛光園 第2グループホーム ユニット名:愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人で所持できる方は自分で管理している。そうでない方も家族様から預かっているので希望があれば職員と一緒に買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りや電話はいつでも出来るようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや音楽の音量に気を付け、室内温度も冬は20℃以上、夏は30℃以下になるよう注意しています。	太陽の光を十分に浴び、静かな環境で清潔感があふれている。広い共用スペースの中で、個々の行動パターンに合わせて、居心地よく過ごせる配慮がされている。エアコンの風が直接あたらないように手作りで工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや和室があり、利用者同士でゆっくりと談話したりテレビを観たりして過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	小物や仏壇、掛け布団、枕、など各自使い慣れたものを使用しています。	入口は格子で長屋風の作りで、入居者自身の手作りの表札を掲げている。使い慣れた馴染みの物が持ち込まれ、めだかの飼育や思い出の写真、活躍していた頃の作品等、一人ひとりの個性があり居心地の良さが伺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前に名前を貼ったり、トイレの分からない方にはトイレの張り紙をして対応しています。家事もその方の出来る事を探し出来るだけ参加して頂いています。		